独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館

Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo

概 要

令和６年度

ご挨拶

東京国立近代美術館は、皇居のそば、緑豊かな北の丸公園の中にあります。空を指さしているように見える二本の巨大な青い柱、イサム・ノグチの彫刻「門」が目印です。

昨年は、総入館者数が808千人と、どの展覧会にも多くのお客様をお迎えすることができたのですが、中でも印象に残っているのは、子育て支援策として開催した「Family Day こどもまっと」に2日で5千人を超える方々がご参加くださったことでした。親子で楽しく話しながらの賑やかな鑑賞環境も求められていることを感じました。

また、インバウンドが回復し、外国人のお客様の割合も大変増えてきています。日本の近代美術を概観できる国内唯一の美術館としての役割を果たしてまいりたいと考えています。

毎日実施している対話鑑賞プログラムは人気があり、英語によるプログラム「Let's Talk Art」を含め充実させてまいります。企業様向けのプログラム（有料）も研修などでご活用いただいております。

より多くの皆さまに親しまれる美術館として成長してまいりたいと考えており、スタッフ一同、皆さまのご来館、ご利用を心よりお待ちいたしております。

令和6年4月

独立行政法人国立美術館
東京国立近代美術館長
小松弥生

国立工芸館は、昭和52（1977）年の開館以来、19世紀末期から現代に至る日本の工芸を中心に、広く国内外の工芸・デザイン作品を収集・保管し、展示事業や教育普及事業などを通して、それぞれの素晴らしさを紹介してきました。その基本的な方針は石川・金沢に移転した後も変わりはありません。

しかし展覧会では、これまでの企画展で主眼としてきた20世紀における工芸領域の多様な創作活動の回顧だけでなく、再評価を必要とする工芸家や、まさに“旬”といえる今日的な表現活動をクローズアップする試みも見据えています。近年は、工芸や美術という領域の枠では捉えきれない新たな作品世界が築かれ拡大しつつあります。一瞬の変化にも遅れをとらないために、常に新しい動向に注目し、その魅力を紹介していきます。

また、工芸・美術に関連する近隣の文化施設との連携も積極的に行い、工芸・デザインの奥深さをしっかりと伝えていきたいと考えています。スタッフ一同、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

令和6年4月

独立行政法人国立美術館
国立工芸館長
唐澤昌宏

東京国立近代美術館　外観

国立工芸館　外観　撮影:太田拓実

目次

概要・沿革 ―― 1

東京国立近代美術館
主な活動 ―― 2

国立工芸館
主な活動 ―― 3

その他 ―― 4

表紙

左:
上村松園
《母子》
1934年（日本画）
（2011年6月27日
重要文化財指定）
東京国立近代美術館蔵

右:
板谷波山
《葆光彩磁牡丹文様花瓶》
1922年（陶磁）
国立工芸館蔵

《概　要》

東京国立近代美術館は、昭和27（1952）年に設置された日本で最初の国立美術館です。明治時代から求められていた、同時代の美術を展示する機能と近代美術を収集・保管・展示する機能とを有しています。いつでも、19世紀末から今日に至るまで、日本の近現代美術の流れを世界の潮流の中でたどるMOMATコレクション展をご覧いただくことができます。

年数回のマスコミ各社との共催展や特別展の開催のほか、所蔵品ガイドの実施、子ども対象の事業、企業向けのワークショップなど教育普及事業にも力を入れています。

本館の建物は、谷口吉郎氏の設計によるモダニズム建築です。平成13（2001）年に、坂倉建築研究所の設計による増改築を行い、アートライブラリを開設するとともに、当時の美術館にはまだ珍しかったレストランも設置しました（現在はラー・エ・ミクニ）。

国立工芸館は、昭和52（1977）年に、東京国立近代美術館工芸館として、旧近衛師団司令部庁舎を活用して開館した、日本を中心とする近現代の工芸・デザイン作品を専門とする美術館です。

政府関係機関移転基本方針により、令和2（2020）年、石川県へ移転し、「国立工芸館」となりました。移転を機に、デジタル鑑賞システムの整備、漆芸家・松田権六の工房を移築・復元した「松田権六の仕事場」の設置などの充実を図りました。日本海側初の国立美術館として親しまれています。建物は、東京時代と近似している旧陸軍関係施設です。

《沿　革》

昭和27（1952）年	京橋の日活本社ビルを改修して、国立近代美術館開館。設計は前川國雄。
昭和38（1963）年	国立近代美術館京都分館が開館。
昭和42（1967）年	国立近代美術館は東京国立近代美術館となり、京都分館は独立して京都国立近代美術館となる。
昭和44（1969）年	石橋正二郎氏からの寄付により、北の丸公園に新築移転。設計は谷口吉郎。
昭和52（1977）年	旧近衛師団司令部庁舎（重要文化財）に工芸館が開館。
平成13（2001）年	独立行政法人国立美術館東京国立近代美術館となる。 本館増改築工事が完了。設計は坂倉建築研究所。
平成30（2018）年	映画部門であった「フィルムセンター」が独立して「国立映画アーカイブ」となる。
令和 2（2020）年	工芸館は石川県金沢市へ移転し、翌年「国立工芸館」となる。建物は、移築・復元された登録有形文化財の旧陸軍第九師団司令部庁舎及び旧陸軍金沢偕行社。

美術作品の収集・保管

19世紀末から今日まで、100年を超える日本と海外の美術作品を収集しています。現在、日本画、油彩、版画、水彩・素描、彫刻（立体造形）、写真、映像などの各分野にわたって13,000点以上を収蔵しています。

所蔵美術作品数（令和５年度末現在）

種別	点数
日本画	865
油彩その他	1,311
版画	3,104
水彩・素描	4,148
彫刻（立体造形）	494
書	21
写真	3,043
映像	78
美術資料	698
合計	13,762

展覧会の開催

所蔵作品展「MOMATコレクション」では、重要文化財18点（2点は寄託作品）を含む13,000点を超えるコレクションの中から毎会期約200点を選び、ほぼ時代ごとに章分けして構成しています。年数回の大きな展示替を行いながら、特定の作家やテーマに沿った特集展示や小企画を開催して、多様な角度から所蔵作品に光をあてています。

令和6（2024）年度の特別展・共催展は、「中平卓馬　火―氾濫」展（～4月7日）、「TRIO　パリ・東京・大阪　モダンアート・コレクション」展（5月21日～8月25日）、「ハニワと土偶の近代」展（10月1日～12月22日）ほかを予定しています。

調査研究活動

東京国立近代美術館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しています。また、その成果を、展覧会カタログ、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録、活動報告などを通じて発信しています。

教育普及活動

企画展にあわせて講演会やトークイベントなどを開催するほか、所蔵作品展でも、ガイドスタッフ（ボランティア）によるギャラリートークを行っています。学校団体に対しての目的や特性に応じたスクールプログラム、未就学児を含むこども・ファミリーに向けたワークショップ、英語による鑑賞プログラム、ビジネスパーソンに向けての鑑賞ワークショップなど、さまざまな対象に向けてプログラムを提供しています。またキュレータートークなどの動画配信を行っています。

ガイドスタッフによる所蔵品ガイド

図書・資料収集

アートライブラリは、近現代美術に関する専門図書館です。展覧会カタログや研究書、画集、写真集を約16万冊、美術雑誌約5,600タイトルに加え、岸田劉生資料や藤田嗣治旧蔵書といった貴重書コレクションも所蔵しています。所蔵資料は、東京国立近代美術館蔵書検索（OPAC）や、美術図書館連絡会の美術図書館横断検索（ALC Search）から検索できます。資料の閲覧は無料で、どなたでもご利用いただけます。

アートライブラリ

作品・画像の貸出

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

また、申し込み制により、当館が所蔵する写真作品を直接閲覧できる「プリントスタディ（写真作品閲覧制度）」を実施しています。

美術作品の収集・保管

国立工芸館では、明治以降今日までの日本と海外の工芸及びデザイン作品を収集しています。特に、多様な展開を見せた戦後の作品の収集に重点を置いています。陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたって4,000点以上を収蔵しています。

所蔵美術作品数（令和５年度末現在）

種別	点数
陶磁	1,155
ガラス	200
漆工	387
木工	92
竹工	53
染織	526
人形	110
金工	473
その他の工芸	17
工芸資料	113
工業デザイン	192
グラフィック・デザイン	841
合計	4,159

展覧会の開催

所蔵作品展、特別展または共催展を、年４～５回ほど開催しています。

所蔵作品展では、陶磁、ガラス、漆工、木工、竹工、染織、人形、金工、工業デザイン、グラフィック・デザインなどの各分野にわたる所蔵作品の中から、100点前後の作品を選び、歴史や特定のテーマに沿った展示を行っています。また、東京国立近代美術館の所蔵作品展「MOMAT コレクション」やギャラリー４においても、定期的に工芸・デザイン作品を展示しています。

特別展及び共催展では、特定のテーマに基づいて国内外の工芸・デザイン作品を展示しています。

エントランス　撮影：太田拓実

調査研究活動

国立工芸館における美術館活動の推進・充実を図るため、継続的な調査研究を実施しており、その成果を、東京国立近代美術館と協同し、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、研究紀要、所蔵品目録等を通じて発信しています。また、特別展及び共催展の開催に伴い、展覧会カタログを出版しています。

教育普及活動

対象年齢や展覧会の内容にあわせて講演会や対話型鑑賞、また様々なワークショップを対面とオンラインで提供しています。また作家の工房訪問や「タッチ＆トーク」等のコンテンツを日本語と英語で製作して配信。学習内容や来館の目的にあわせたスクールプログラムや、教員の方向けの研修などもきめ細やかに対応しています。

英語タッチ＆トーク（オンライン配信）

図書・資料収集

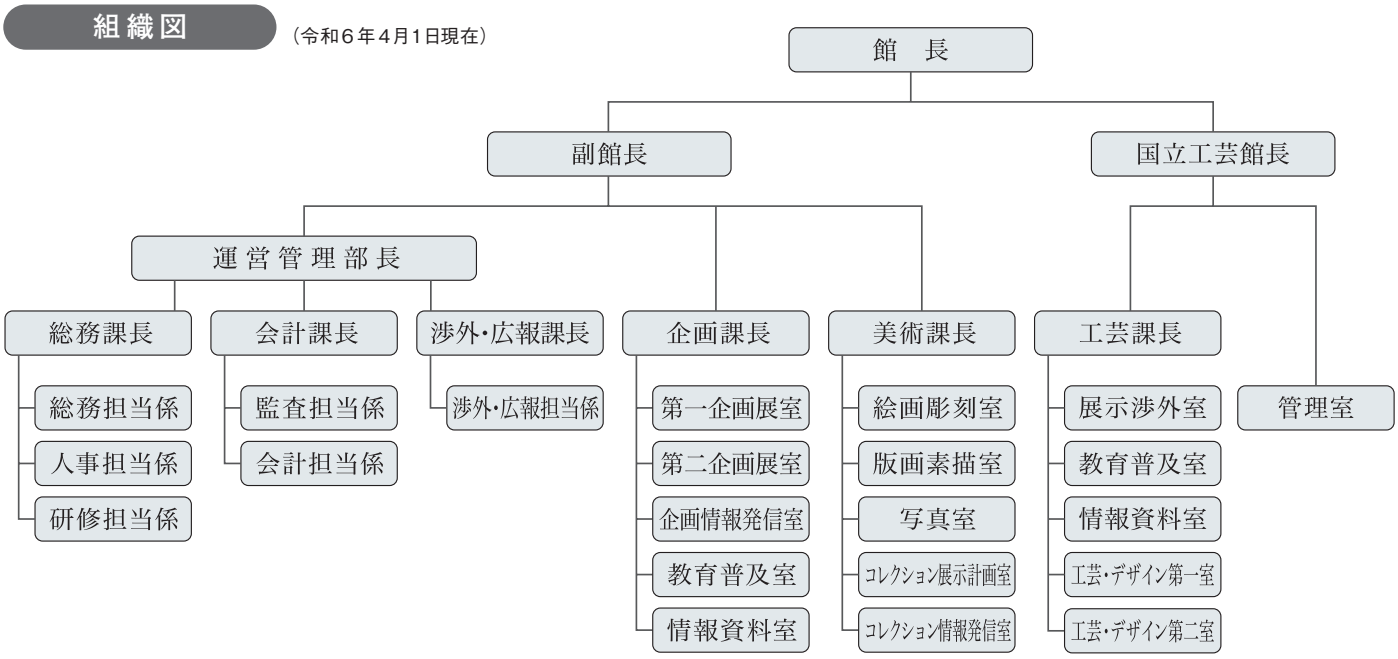
国立工芸館アートライブラリでは、主に近・現代の工芸・デザインに関する作品集、展覧会カタログ、各種美術参考図書などを約35,000冊、美術雑誌を約1,500タイトル所蔵しており、一般の方々の閲覧に供しています。

作品・画像の貸出

所蔵作品をより多くの方々に親しんでいただくために、他の美術館等で開催される展覧会へ作品貸出を行っています。また教育、学術または文化に係る出版などを行う他の団体等に向けて、所蔵作品のデジタル画像や写真原板の貸出などを行っています。

組織図

（令和６年４月１日現在）



職員数

（令和６年４月１日現在）

本　館

館長	1
運営管理部（※1）	
部長	1
課長	3
室長	1
係長	7
主任	3
係員	10
特定専門職員	5
事務補佐員	9
研究補佐員	2
情報研究補佐員	1
小計	42
副館長	1
企画課	
課長	1
主任研究員	5
研究員	1
特定研究員	1
研究補佐員	6
美術課	
課長	1
主任研究員	3
研究員	1
任期付研究員	3
研究補佐員	3
客員研究員	1
小計	27
合計	70

国立工芸館

館長	1
管理室	
室長	1
係長/専門職員	2
一般職員	2
特定専門職員	1
事務補佐員	2
小計	8
工芸課	
課長	1
主任研究員（※2）	2
研究員	1
特定研究員	3
研究補佐員	7
情報研究補佐員	1
客員研究員	1
研修生	2
小計	18
合計	27

（※1）（独）国立美術館本部事務局を併任
（※2）（独）国立美術館の他館併任を含む

予　算

（単位：千円）

令和６年度	本　館	国立工芸館	総計
美術振興事業費	391,602	197,995	589,597
ナショナルコレクション形成・継承事業費	151,405	116,312	267,717
ナショナルセンター事業費	6,182	6,509	12,691
一般管理費	87,282	38,129	125,411
合計	636,471	358,945	995,416

入館者数

（単位：人）

令和５年度	本　館	国立工芸館	総計
所蔵作品展入館者数	286,612	15,926	302,538
共催展入館者数	522,026	136,997	659,023
合計	808,638	152,923	961,561

施設概要

本　館

土地	敷地面積	6,107㎡ （環境省及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構から使用承認）
建物	構造規模	鉄骨鉄筋コンクリート造　地上4階　地下1階
	建物面積	4,511.62㎡
	延床面積	17,192.6㎡ （展示スペース4,459.0㎡　収蔵スペース1,337.8㎡　その他11,395.8㎡）

国立工芸館

建物（※）	構造規模	木・鉄筋コンクリート造　地上2階　地下1階
	建物面積	1,427.23㎡
	延床面積	3,072.22㎡ （展示スペース703.76㎡　収蔵スペース484.48㎡　その他1,883.98㎡）

（※）石川県及び金沢市から無償借受

会員制度のご案内

当館では、東京国立近代美術館（MOMAT）をもっとお得に楽しみたい皆さまに、また、MOMATをご支援くださる皆さまに、様々なメンバーシップ・プログラムをご用意しています。詳しくは美術館ウェブサイトにてご確認ください。

利用案内

本　館

◎観覧料

区分		一　般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方、65歳以上の方
所蔵作品展	個 人	500円	250円	無料
	団 体	400円	200円	無料
特別展 共催展	展覧会ごとに異なります。 詳しくは美術館ウェブサイトにてご確認ください。			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人が無料になります。

◎開館時間

午前10時～午後5時（金・土曜日は午前10時～午後8時）［入館は閉館30分前まで］ ※開館時間は変更となる可能性があります。

◎休館日

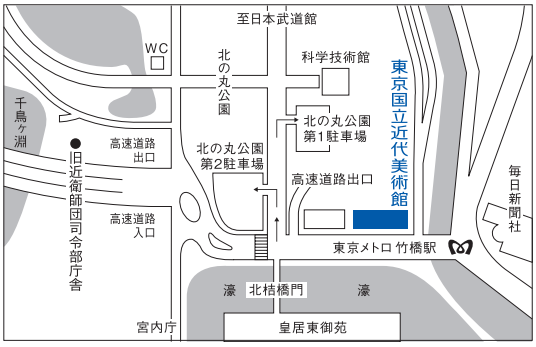
月曜日［月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌平日休館］、展示替期間、年末年始

公式ウェブサイト	https://www.momat.go.jp
公式X	https://twitter.com/MOMAT_museum
公式Facebook	https://facebook.com/momat.pr
公式Instagram	https://www.instagram.com/momat_museum
公式YouTube	https://www.youtube.com/user/MOMAT60th

◎所在地・問合せ先

〒102-8322　東京都千代田区北の丸公園3-1
TEL 03-3214-2561（代表）
FAX 03-3214-2577（運営管理部）
　　03-3214-2576（企画課・美術課）

東京メトロ東西線「竹橋駅」下車（1b出口）徒歩3分



国立工芸館

◎観覧料

区分		一　般	大学生	高校生以下及び18歳未満の方、65歳以上の方
所蔵作品展	個 人	300円	150円	無料
	団 体	250円	70円	無料
特別展 共催展	展覧会ごとに異なります。 詳しくは美術館ウェブサイトにてご確認ください。			

※団体とは20人以上同時に観覧するもので、引率者は20人につき1人が無料になります。

◎開館時間

午前9時30分～午後5時30分［入館は閉館30分前まで］
※開館時間は変更となる可能性があります。

◎休館日

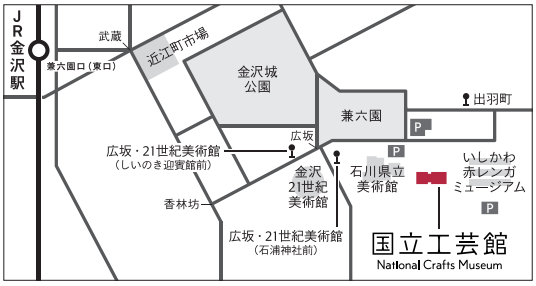
月曜日［月曜日が祝日又は振替休日に当たる場合は開館し、翌平日休館］、展示替期間、年末年始

公式ウェブサイト	https://www.momat.go.jp/craft-museum
公式X	https://twitter.com/ncm2020
公式Facebook	https://facebook.com/ncm2020.pr
公式Instagram	https://www.instagram.com/nationalcraftsmuseum/
公式YouTube	https://www.youtube.com/c/ncm2020

◎所在地・問合せ先

〒920-0963　石川県金沢市出羽町3-2
TEL 076-221-2020（代表）　FAX 076-221-1969

JR金沢駅東口（兼六園口）からバスにて
3番乗り場：乗車（約12分）、「広坂・21世紀美術館（石浦神社前）」下車徒歩7分
6番乗り場：乗車（「柳橋」行を除く）（約12分）、「出羽町」下車徒歩5分
7番乗り場：城下まち金沢周遊バス（右回り）乗車（約18分）、「広坂・21世紀美術館（石浦神社前）」下車徒歩7分／城下まち金沢周遊バス（左回り）乗車（約20分）、「広坂・21世紀美術館（石浦神社向い）」下車徒歩7分
8番乗り場：乗車（約11分）、「広坂・21世紀美術館（しいのき迎賓館前）」下車徒歩9分



MOMAT
The National Museum of Modern Art, Tokyo

MOMAT支援サークル（MOMAT Corporate Partnership）

東京国立近代美術館は、企業による美術館支援制度を設け、当館の様々な活動にご協力をいただいております。パートナー企業の皆様には、社員証提示による所蔵作品展無料見学などを通し、美術館をお楽しみいただいております。

パートナー企業（令和６年４月現在）

〈プラチナパートナー〉

木下グループ KINOSHITA GROUP
LUXURY CARD™
SMBC 三井住友銀行

〈ゴールドパートナー〉

三菱商事
DNP 大日本印刷
AVANT GROUP
株式會社 オオバ
JEOL 日本電子株式会社

〈シルバーパートナー〉

鹿島建物
Marubeni
Pacific Consultants
SEIKO
MS&AD 三井住友海上
MIRARTH HOLDINGS
月島倉庫株式會社
UESHIMA COLLECTION